九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[024] 中国文学論集表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/9896

出版情報：中国文学論集. 24, 1995-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

ここに『中国文学論集』第二十四号を上梓する。本号は、韓国ソウル大学校の金学主教授を巻頭に、本年我が研究室の主任教授にご昇任された竹村先生、明木講師、そして山口大学の阿部先生の各ご高論、さらに広島女子大の柳川先生のご書評を掲載させて戴いた。また、大学院の新鋭の諸君からは、諸田、黄、呉の三君から寄稿を願った。いずれも、これまでに無い新しい視点で、各個の問題に取り組まれ、かつ、従来は餘り重要視されていなかった資料への言及も少なく無く、本号を手にされる会員諸氏には、必ずやご満足戴けるものと、編集にたずさわった者の一人として窃かに自負するものである。特に、柳川先生の書評は、昨年末、中国より出版されたばかりの書籍についてのものであり、その炯眼の鋭さとすみやかさには、ひたすら感服するものである。また、黄、呉両君の論文は、本論集久々の、外国人による日本語での論文であり、一同学として、両君の平生の努力を嘉したい。

ところで、本年は何がしか悲しいこと、驚かされることの多い一年であった。今はただ、この言葉が「あった」という過去形となることのみを願うばかりであるが、我々中国の文学と言語とを学び、これに日々親しむ者としては、何としても、この世上の荒波に堪え、淤泥の荷華となるよう自ら強めたいものである。中国の文学は、人の世の喜びや悲しみ、或は、遣り場の無い思いや胸奥の苦しみを、最も真摯に受け止め、これを読む人のために、生き抜くべき活路を模索してくれるものであると信じている。会員諸氏のご多幸を祈ると同時に、本会の今後の発展を、切に希うものである。

（静永　健　記）